

楠原だより

充実の二学期にー！

二学期が始まり、早二週間が経過しようとしています。始業式では、つい先日まで実施されていた東京パラリンピックで、活躍したエジプトのハマドトウ選手(卓球)のことを話題にして、次のような話をしました。

ハマドトウ選手は、十歳の時に列車の事故で両腕を失いました。十三歳の時、友達から「その体では卓球はできないね」と言われたことがきっかけで本格的に卓球を始めたそうです。ハマドトウ選手は両腕がありませんからラケットは口にくわえます。サーブをするときは、足で球をはさんでトスを上げます。相手に打ち返すときも、口にラケットをくわえたまま、素早く移動して打ち返します。ラケットをくわえて練習を始めたばかりの時は、歯が痛くて痛くて十分と我慢できなかつたそうです。しかし、それでも痛みになれるまで毎日毎日数時間練習を繰り返しました。また、長い時間しつかりラケットをくわえていられるように首の筋肉も徹底的に鍛えたそうです。それから三十年たった、2016年のリオデジャネイロ大会において、みごとオリンピック初出場を果たすことができたのです。今回の東京大会では、残念ながら予選で負けてしまいました。ハマドトウ選手は、

めげず児童像
思いやりのある子
楽しく学ぶ子
たくましい子

試合が終わった後、「私は不可能なことではないということを証明したかった。できないことはない」と世界中の人に知ってほしい。と言っていたそうです。

二学期は一年間の中で一番過ぎやすく、期間も長い学期です。目標に向かって努力し続けられれば、今までできなかったことがきつとできるようになるはず。分からなかったことが分かるようになるはず。

「目が見えない・耳も聞こえない・話すこともできない」という三つの障害のあったヘレン・ケラーは、家庭教師であったサリバン先生の教えを受け、たゆまざる努力の末、指文字を習得し、大学に入学しました。その後は、世界各地を飛び回り、教育や社会福祉の充実・発展に努めました。ヘレン・ケラーがよく口にした言葉に、

「あきらめずにいれば、あなたが望む、どんなことだってできるものです。」というのがあります。

新たに二名の仲間が増え、百七名となった岐宿小学校のみなさん一人一人が、あきらめずできることをどんどん増やしていってくれることを期待しています。

新しい仲間

待っています。

以上のような内容でした。努力の大切さ・尊さ・すばらしさとともに、何かを成し遂げたときの満足感や成就感をぜひとも子どもたちに味わってほしいものです。

うれしいことに九月から新しい二人の仲間が増えました。紹介します。

- 松下 怜奈さん 四年生
- ゆい
- 松下 結依さん 六年生



姉妹です。広島市からの転入です。どちらも、すぐに学校に慣れ、日に友達を増やしていつているところです。

夏休み作品展

昨日(九月十四日)まで、校内で夏休み作品展を行いました。昨年は、コロナ禍の影響で夏休みが短縮となり、作品展自体を取りやめたので、二年ぶりの作品展でした。子どもたちそれぞれに得意な分野で様々な作品を作っていました。紹介します。



力作揃いでした。今後、作品の一部は、町文化祭作品展示の部などに使わせていただきます。